

おほみわのまへつきみ、ながとのかみ
大神大夫、長門守に任ぜらるる時に、
みわがは
三輪川の辺に集ひて宴する歌二首

一七七〇番

みもろ
三諸の 神の帯ばせる 泊瀬川 水脈し絶えずは
あれわす
我忘れめや

一七七一番

をく
後れ居て 我はや恋ひむ 春霞 たなびく山を
きみ
君が越え去なば

おほみわのまへつきみ、つくしのくに
大神大夫、筑紫国に任ぜらるる時に、
あへのまへつきみ
安倍大夫の作る歌一首

一七七二番

をく
後れ居て 我はや恋ひむ 印南野の 秋萩見つつ
い
去なむ子故に